

株式会社日本エスコン
2020年12月期通期 決算説明会 質疑応答

2021年2月25日

※理解促進のため、質問と回答の一部は加筆修正を行っております。

Q1.

新中期経営計画「IDEAL to REAL 2023」における最終年度(2023年12月期)までの収益計画に、中部電力株式会社(以下、「中部電力」と言います。)との連携による効果はどの程度織り込んでいますか？

A1.

当社は中部電力を割当予定先とした第三者割当増資を行い、中部電力と新たに資本業務提携を締結いたしました。これにより中部電力グループとの更なる事業連携の推進を通じて、都心・駅前の大型再開発や大型まちづくりへの参入が可能となりますが、これらは収益化まで5年以上の時間を要するため、中部電力との連携によって見込まれる収益については、本中期経営計画における収益計画には含まれておりません。

一方で、第4次中期経営計画「IDEAL to REAL 2023」においては、「想定外の経済環境の変化に耐えうる事業基盤の確立」を基本方針としており、フロー収益重視からストック収益重視の収益構造への転換を図るべく、不動産賃貸事業が占めるセグメント利益の割合を、当社の事業報告セグメント全体に対して2020年度14.2%から2023年度までに26%に高める数値目標を設定しております。上記第4次中期経営計画達成のため、今般の第三者割当増資により調達した資金約204億円については、収益不動産の購入・開発に係る当社事業資金の一部に充当予定であります。

Q2.

2020年10月より新たに着手している、納骨堂永代使用権販売および管理運営事業がどのように収益につながるのか、また収益の規模を教えてください。

A2.

当該事業を行う納骨堂「了聞」は9,999基の厨子基数を有し、これから永代使用権販売を行っていく予定で現在価格を調整中です。なお、納骨堂の運営主体は、宗教法人瑞華院(ずいけいん)であり、株式会社了聞が瑞華院より販売及び管理運営業務を受託し、その手数料を頂戴する形となります。計画としては年間約10億円の販売利益を見込んでおります。

以上